

総合学術研究科における3つのポリシー【保健福祉学専攻】

■教育理念・目的

地域が抱える保健福祉サービスの課題を科学的に実証し、その保健福祉サービスを実践現場で浸透させる能力を有し、生涯にわたり専門能力開発を続け、保健福祉専門職全般の生涯学習を促進する**高度専門職業人**を育成します。

◆学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

≪博士課程前期≫

博士課程前期の修了生が身につけるべき資質・能力である以下のディプロマ・ポリシーを達成した学生に「修士（保健福祉学）」の学位を授与します。

- ① 地域が抱える保健福祉サービスの課題に関連する背景を理解し、研究課題を明確にし、その課題を解明するための適切な研究方法を選択できます。
- ② 科学的検証を通して得られた知見を実践現場に還元することができます。
- ③ 自らの経験を通して生涯にわたり自らの専門能力の開発に取り組むことができます。

≪博士課程後期≫

博士課程後期の修了生が身につけるべき資質・能力である以下のディプロマ・ポリシーを達成した学生に「博士（保健福祉学）」の学位を授与します。

- ① 地域が抱える保健福祉サービスの課題に対して、研究者として自立して科学的に実証することができます。
- ② 実践現場のリーダーとして、科学的に実証された保健福祉サービスを現場に浸透させることや制度に反映させることを主導することができます。
- ③ 自身の専門能力の開発に加えて、他職種の教員が開講する科目を履修し、学際的に学修することで、幅広い学識を養い、他職種に対しても研究指導・実践指導等ができ、保健福祉専門職の専門能力開発を促進することができます。

【人材育成目標】

地域において保健・医療・福祉分野の発展に貢献できる高度専門職業人、教育者、研究者を育成します。保健・医療・福祉のより高度な知識と技能を一体的に修得し、他の専門職や地域機関と連携する能力を備えることで、保健・医療・福祉に関わる指導的役割を果たすことができる人材を養成します。

【学修成果】

保健・医療・福祉の現場やこれに関連する行政の場において、高度な専門知識や技能を修得し、他の専門職と連携して問題解決に当たることができる高い実践力を有し、地域における保健・医療・福祉サービスの質的向上に寄与することができる高度専門職業人を養成します。

高度な専門知識や技能を効果的に指導することができる教育者を養成します。

地域における保健・医療・福祉分野の課題解決のためのアドバイザーの役割を担うことができる専門職業人や研究者を養成します。

◆教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

【教育の特色】

- (1) 地域における包括的なケアシステムの構築等、地域貢献に資する研究と教育を行っています。
- (2) 保健・医療・福祉の連携と統合を重視した多彩な科目を提供しています。
- (3) 短期大学・専門学校等の卒業生を含む多様な人材の受け入れを実施するとともに、社会人が学びやすい長期履修制度を導入しています。
- (4) サテライトキャンパス設置等による学びやすい環境整備を行っています。
- (5) 昼夜休日の開講を実施しています。
- (6) 計画的な指導を実施するために研究指導計画書を導入しています。

【専門教育科目の構成】

専門教育科目は、共通科目、専門科目から構成されます。共通科目では、保健・医療・福祉の基盤的知識や相互の連携について学びます。専門科目では、地域保健学・実践看護学分野、総合リハビリテーション分野、ヒューマンサービス分野ごとに科目が設定されています。

【専門教育科目の特色】

保健・医療・福祉分野の連携と統合を深め、地域における包括的なケアシステム構築と、保健・医療・福祉の発展に貢献できる能力をもった高度専門職業人、教育者、研究者になるための指導を行います。

【学修環境】

保健・医療・福祉分野の総合的な学術研究を進めることができるよう、専攻の分野・領域を設定しています。また、昼夜休日開講やサテライトキャンパス等、社会人が学びやすい柔軟な環境を整備しています。

【DPとの関係】

研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む教育を行います。

地域社会における保健福祉分野の課題を専門的、及び学際的に学び、科学的観点からその解決方法を模索し、提案できる能力を習得する教育を行います。

多様な保健福祉分野において、効果的な他職種連携を促進できる能力を培う教育を行います。

【学修成果の評価方法にかかる基本的な方針】

授業科目ごとの「授業の目標」と「成績評価の方法」をコースカタログに示し、目標到達度をレポート、プレゼンテーション、討論への参加度等、多面的評価基準により厳正に評価します。

また、学位論文に係る審査については、本専攻において定めている「学位論文に係る評価基準」及び「学位論文審査及び最終試験実施要領」により審査します。

◆入学者受入方針（アドミッション・ポリシー：AP）

【求める学生像】

保健・医療・福祉分野において地域社会の様々な課題を解決しうる専門職として、高度な知識と技能を学ぶ意欲に満ちた人

《博士課程前期》

- 保健・医療・福祉分野において地域社会の様々な課題を解決しうる専門職として、高度な知識と技能を学ぶ意欲に満ちた人

《博士課程後期》

- 保健福祉において専門職としての実務経験を持ち、医療を含む保健福祉学における研究を行い、論文を執筆した経験がある人
- 地域が抱える保健福祉サービスの課題に対するリサーチマインドを持っている人
- 地域が抱える保健福祉サービスの課題をリーダーシップをとって解決しようとする意欲のある人
- 保健福祉分野の多様な知識・技能を他職種と連携して高度化させ、さらには、自身の職種だけでなく、他職種の専門能力の開発を促進しようとする意欲のある人

【入学者選抜の基本方針】

《博士課程前期》

[一般選抜]

学部卒業レベルの専門知識及び語学力を修得していることを確認し、本専攻のカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を見るため、TOEIC スコア又は小論文、口述試問を課し、専門知識、課題解決能力、研究への意欲等を総合的に評価します。

[社会人特別選抜]

学部卒業レベル相当の専門知識及び語学力を有していることを確認し、本専攻のカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を見るため、TOEIC スコア又は小論文、口述試問を課し、専門知識、課題解決能力、研究への意欲等を総合的に評価します。なお、学士あるいは高度専門士の称号をもたない社会人に対しては、資格審査を行います。

[外国人特別選抜]

学部卒業レベル相当の専門知識及び語学力を有していることを確認し、本専攻のカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を見るため、小論文又は TOEIC/TOEFL スコア、口述試問を課し、専門知識、課題解決能力、研究への意欲等を総合的に評価します。

《博士課程後期》

保健福祉学分野の専門知識と思考力・判断力を評価します。TOEIC スコア、小論文及び口述試問による学力検査、研究意欲を評価する面接試験を行い、専門知識、課題解決能力、研究への意欲等を総合的に評価します。